

部門	所属	報告内容	写真等	とき・ところ	報告者
				主体・対象（構成員数）	
担い手	尾張	<p><b>「いなざわ植木まつり」で、4 Hクラブ活動をPR！</b></p> <p>尾張4 Hクラブ連絡協議会は稲沢市で開催された「いなざわ植木まつり」に出店し、農作物の直売を行った。4名のクラブ員が参加し、クラブ員が生産したイチゴ、ダイコン、タケノコ等の農産物やイチジクジャム等の加工品の販売を通して、消費者と交流を深めた。またテント内では4 Hクラブの活動をまとめたポスターを展示して4 Hクラブの活動をPRした。</p>	 <p>出店した4 Hクラブ員</p>	<p>令和7年4月20日 国府宮神社参道 (稲沢市)</p> <p>尾張4 Hクラブ連絡協議会 (7名)</p>	<p>(稲沢駐在室) 技術経営指導グループ 浅野 純一</p>
		<p><b>管内で初めてバラ鉢物生産者がUV-Bランプを試験的に導入</b></p> <p>管内で初めてバラ鉢物生産者が試験的にUV-Bランプを導入した。うどんこ病が発病しているバラ鉢物に4月中旬から5月初頭までUV-Bを照射したところ、強光区（UV-B強度5～14 μW/cm<sup>2</sup>）及び弱光区（UV-B強度3～8 μW/cm<sup>2</sup>）の方が無処理区と比較してうどんこ病の蔓延を抑えることができていた。生産者はUV-Bランプの効果を実感しており、次作ではハウス1棟全面にランプを導入する意向を示した。農業改良普及課はUV-Bランプの効果的な使用方法の検討等、引き続き支援していく。</p>	 <p>夜間のUV-B照射のハウス</p>	<p>令和7年5月4日 稲沢市</p> <p>バラ鉢物生産者 (1名)</p>	<p>(稲沢駐在室) 花き・果樹経営指導グループ 菅 七菜子</p>
作物	尾張	<p><b>麦茶用六条大麦、2回目の採種ほ場審査を実施 全ほ場合格！</b></p> <p>J A 愛知北管内の大口町、扶桑町は県内最大の麦茶用六条大麦の産地であり、3戸で約75ha栽培されている。他県からの種子供給がなくなることを受け、令和6年産から1戸が種子生産を行っており、今年で2年目となる。農業改良普及課は1回目のほ場審査後に赤かび病の適期防除を指導し、実施されたことで病気の発生は見られなかった。収穫物の品質低下の原因となる雑草は抜き取りを行い、全ほ場合格となった。収穫時期は、粒の水分や天候を考慮して6月上旬の見込みである。今後は、種子の発芽率調査や生産物審査を実施する。</p>	 <p>ほ場審査</p>	<p>令和7年5月27日 大麦採種ほ場 (大口町)</p> <p>大麦採種栽培農家 (1戸)</p>	<p>(稲沢駐在室) 技術経営指導グループ 高橋 比呂</p>
		<p><b>はつらつ農業塾 担い手育成コース説明会が開催される</b></p> <p>J A 愛知西と一宮市、稲沢市で運営している「はつらつ農業塾」の担い手育成コースの説明会が開催された。担い手育成コースでは講義や圃場での栽培管理を行うことで農業経営に必要な知識を習得する。2年目の研修では就農に向けた専攻品目を決め、その出荷組織の生産者圃場での研修が中心となる。農業改良普及課は、入塾希望者に対して露地ナス、採種タマネギ等の専攻品目の経営モデルや就農準備資金・経営開始資金などの説明を行った。今後も農業塾の研修講師を務める等の支援を実施し、担い手の確保・育成を推進する。</p>	 <p>説明会</p>	<p>令和7年5月13日 J A 愛知西一色下方 研修センター (稲沢市)</p> <p>はつらつ農業塾 (入塾希望者5名)</p>	<p>(稲沢駐在室) 技術経営指導グループ 久野 智香子</p>